

# 研究報告記

所属：カタール大学湾岸研究センター

氏名：松田和人

## 1. 研究報告について

日 時：2023年3月2日（木）17:25-17:50

場 所：イスラーム信頼学全体集会（於：東京外国語大学）

報告題：Theory and Practice: Discussing the Nexus between the Concept of Comprehensive Security and Japan-Gulf Relations

形 態：ポスターでの研究報告

参 加：オンライン（カタールから遠隔で参加）

## 2. 所感

まず始めに、この度研究報告の機会をくださったイスラーム信頼学事務局の皆様にご場をお借りして厚く御礼を申し上げます。また、カタールからオンラインで研究報告を行うにあたり、事前及び当日のご準備にご尽力いただいたご担当者の方々へも併せて厚く御礼を申し上げます。そうした方々のご尽力なしには今回の研究報告は叶いませんでした。

前述の通り今回はカタールから遠隔での参加であったため、全体集会の中の全体発表・討論・企画展等の行事には参加することができず、研究報告のみの参加に留まりましたが、研究報告を通して、ポスターの内容を簡潔にまとめて発表する経験や、質問に的確に答える経験を積ませていただくことができました。

特に、質疑応答セッションでは質問者の方々との間で今次研究そのものや、研究テーマに関する大変有意義な意見交換を行わせていただくことができました。なお、同セッションの際は、ポスター内の固有名詞（例：「Arab Gulf states」）の定義や、今次研究の対象期間等に関する質問をいただきました。そうしたやり取りの中で、ポスターに記載してある固有名詞や研究の対象期間に関するより詳細な説明の追記が、当該ポスターの改善点であると実感いたしました。さらに、別の質問者の方から、ポスターに図表等を挿入できると、よりポスターの読みやすさが向上するとのご指摘をいただくことができました。この様に、質疑応答セッションを通して、今後の改善のためのご指摘を幾つかいただくことができ、大変有り難く思っております。これらの反省点は、ぜひ今後の研究報告に活かしたいと思います。

最後に、繰り返しとなりますが、今次研究報告は多くの関係者の方々のご尽力のお陰で実現することができました。重ねまして、厚く御礼を申し上げます。